

令和 6 年 6 月 25 日現在

機関番号：34315

研究種目：基盤研究(B)（一般）

研究期間：2021～2023

課題番号：21H03724

研究課題名（和文）観光学3.0へ向けたツーリズム・モビリティの再考

研究課題名（英文）Reconsidering Tourism Mobilities Toward Tourism Studies 3.0

研究代表者

神田 孝治（KANDA, Koji）

立命館大学・文学部・教授

研究者番号：90382019

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 13,300,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では、COVID-19の流行によって生じた状況に注目して、ツーリズム・モビリティについて再考した。こうした取り組みを通じて、静的な構造などを強調する初期の観光学と、2000年代以降に活発化した移動論的転回にかかる議論と結びついた動的な様相に着目する最近の観光学のあわいを問う、「観光学3.0」と呼ぶ観光学のあり方を探究した。また、本研究課題を推進するなかで、多くの論文・書籍の研究結果が得られると共に、学会・研究機関と連携してシンポジウムなどの企画を幾つも実施した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

COVID-19の流行によって生じた状況に注目した観光研究の成果は近年数多く生み出されたが、本研究は、単なる実態把握にとどまらず、そこから得られた知見をふまえ、既存の研究潮流を問い直し、新たな観光学のあり方を探究するものであった。こうした本研究課題への取り組みを通じて得られた数多くの研究成果は、学会・研究機関と連携した催しなどを通じて観光研究者に公開され、特に日本における観光研究の進展に貢献することができたと思う。

研究成果の概要（英文）：This study reconsidered tourism mobilities by focusing on the situation created by the COVID-19 pandemic. Through these efforts, we sought an alternative way of tourism studies that could be called “Tourism Studies 3.0,” which explores the intermediate perspectives between early tourism studies that emphasized aspects such as static structural features, and recent tourism studies that focused on dynamic aspects related to the discussion of the mobilities turn which gained prominence after the 2000s. In the course of pursuing this research project, we obtained research results in the form of many papers and books and organized several symposiums and other events in cooperation with academic societies and a research institution.

研究分野：文化地理学、観光学

キーワード：ツーリズム モビリティ

様式 C-19、F-19-1 (共通)

1. 研究開始当初の背景

人文・社会科学の観光研究は1990年代以降に活発化したが、そうした研究はしばしば表象に注目して静的な構造などについて考察していた。しかしながら、2000年代に「移動論的転回」として知られるようになった知的潮流と連動して、さまざまな移動との関係性を論じつつ、物質・身体・行為などに焦点をあてて検討を行う、新しいタイプの観光研究が行われるようになった。このような変化を研究代表者は、観光学1.0から観光学2.0へのパラダイム転換であると捉えている。そして観光学2.0と呼びうる観光研究は、特に本研究の構成員が重要な役割を果たすなかで、日本において探究がなされてきた。とりわけ本研究構成員の一部で構成された基盤研究(B)(2017-2019年度)「現代社会におけるツーリズム・モビリティの新展開と地域」(代表：神田孝治、課題番号：17H02251)の活動によって、現代社会の新しいツーリズム・モビリティについて地域に着目して検討するという研究が進められた。

こうした潮流にある観光研究の新たな課題として、2020年のCOVID-19の流行がもたらした大きな社会的影響があった。かかる事象によって、移動がもたらすリスクに焦点があたり、観光移動の急速で大幅な減少をみたのであり、不動であることの意義が注目され、国境や県境といった境界の役割が強まり、身体的な移動が管理されるようになった。まさに観光学2.0の議論の背景となっていた移動の増大という状況が崩れ、一方で観光学1.0において焦点があてられていた構造・固定・境界・管理といった近代的な特徴が前景化したのである。しかしながら、バーチャル・ツーリズムのように、観光移動が再考されてそのあり方が変化し、観光学2.0でしばしば論じられるポストモダンの特徴も前景化していた。このようなCOVID-19の流行によって生じた状況をふまえ、観光学の新しいあり方を探究することが求められると考えた。

2. 研究の目的

上述の観光学の新しいあり方を、研究代表者は観光学3.0と呼び、それは観光学1.0と観光学2.0のあわいを問うもので、それぞれで注目された視座をあわせもちつつ、新しい観点も加えたものになると考えた。そしてこの観光学3.0を探究することを本研究の目的とし、観光学1.0と2.0の議論を架橋しつつ、観光学2.0の次の段階を目指すために、研究代表者をはじめとする本科研の構成員が検討してきた、ツーリズム・モビリティに関する既存の議論を、COVID-19による状況をふまえて再考するなかでそれを実践することとした。すなわち、COVID-19を契機とした新しいツーリズム・モビリティの様相を明らかにしてそれを考察し、そしてそこで得られた知見をもとにツーリズム・モビリティについて再考すると共に、観光学1.0と観光学2.0の成果をふまえつつ、これからの新しい観光学(観光学3.0)のあり方を探究することを目的としたのである。

3. 研究の方法

本研究課題を推進するにあたり、「テクノロジー」「メディア」「ディファレンス」「エシックス」「ダークネス」「リージョン」を重要なテーマと位置付け、それぞれに研究グループを組織した。各グループの構成員は、特定の具体的な事例を検討するなかで、各々が対象とするテーマに注目してツーリズム・モビリティについて再考した。これにはCOVID-19以後の様相を明らかにして考察することと共に、それ以前の状況の再検討も含まれる。また、観光学3.0へ向けて観光研究の分析の視座についても検討した。なお、移動に注目して観光を考察する場合、しばしば越境や混淆という特徴が前景化するため、主担当を中心に各グループの研究を推進するが、副担当だけでなく、他の構成員も適宜サポートを行うことを方針とした。そして、観光研究にかかる交流のハブ機能を果たすと共に、研究の内容をさらに深め、広く情報発信を行うために、学会・研究機関とも協力し、シンポジウムなどの企画を積極的に行うこととした。

4. 研究成果

本研究課題の取り組みによって、「5.主な発表論文等」に掲載したように、多くの研究成果が生み出された。とりわけ、神田孝治「観光学3.0の探究に向けて ツーリズム・モビリティーズの再考を通じた展望」(観光学評論11-1、2023、73-87)は、本科研の中心的な課題を探究したもので、あわいに注目する観光学3.0の視座について論じた象徴的な研究成果である。また、本科研構成員の多くが参画した神田孝治・遠藤英樹・高岡文章・鈴木涼太郎・松本健太郎編『移動時代のツーリズム 動きゆく観光学』(ナカニシヤ出版、2023)も、本研究の重要な成果であると考えられる。

本科研の特徴として、観光学術学会などとの連携によりシンポジウムなどを実現し、そこを通じて広く研究成果の発表を行ったことがある。2021年度は、観光学術学会と共催でシンポジウム「ライティング・ツーリズム COVID-19以降の観光研究とは」(開催日：2021年7月3日、於：オンライン、発表者：神田孝治・遠藤英樹、コーディネーター：遠藤英樹)とシンポジウム「観光とエシックス 様々な探究の可能性」(開催日：2022年2月19日、於：オンライン、発表者：原一樹・薬師寺浩之、コメンテーター：間中光、コーディネーター：原一樹)を開催した。

その他にも、立命館大学人文科学研究所の学術イベントである「ツーリズム・モビリティーズを問い直す COVID-19 以後のモビリティ・ジャスティスとは何か」(開催日:2022年1月23日、於:オンライン、発表者:遠藤英樹・原一樹・Doering Adam、コメント:神田孝治・山本理佳)と、「『アフターコロナの観光学』とその後」(開催日:2022年3月25日、於:オンライン、発表者:藤巻正己・安田慎・間中光、コメント:山本理佳・橋本和也、コーディネーター:神田孝治・遠藤英樹)を共催した。2022年度は、人文地理学会の第2回観光空間研究部会を共催で実施して本科研構成員による研究発表がなされ(開催日:2022年7月31日、於:オンライン、発表者:松本健太郎、コメント:神田孝治・遠藤英樹、司会:山本理佳)また観光学術学会と共催でシンポジウム「『メディア誘発型観光』研究の刷新」(開催日:2023年2月18日、於:多摩大学、発表者:遠藤英樹・松本健太郎、コーディネーター:遠藤英樹)も実現した。そして2023年度は、観光学術学会第12回大会でテーマセッション「観光学3.0へ向けたツーリズム・モビリティの再考」という取りまとめとなる催しを企画(発表者:神田孝治・遠藤英樹・山口誠、コメント:須藤廣・松本健太郎・原一樹・安田慎、司会:高岡文章)すると共に、観光学術学会と共催でシンポジウム「ジェンダーとツーリズム 多角的な視座の探究」(開催日:2024年2月18日、於:京都橘大学、発表者:神田孝治・中村香子・吉田道代)も実現した。

本研究課題は、こうした研究成果の発表を通じ、特に日本における観光研究の進展に寄与することができたと考える。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計30件（うち査読付論文 26件 / うち国際共著 1件 / うちオープンアクセス 26件）

1. 著者名 橋本 和也	4. 巻 134
2. 論文標題 『ホスト・アンド・ゲスト：観光人類学』再考と観光研究の未来	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 立命館大学人文科学研究所紀要	6. 最初と最後の頁 247～273
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.34382/00018077	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 橋本 和也	4. 巻 35
2. 論文標題 「感染症とともにある観光学」の試み 感染症の人類学を参照して	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 立命館地理学	6. 最初と最後の頁 1～13
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 橋本 和也	4. 巻 138
2. 論文標題 観光研究のアフェクト（情動）論的転回 「感情ネクサス」の生成変化について	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 立命館大学人文科学研究所紀要	6. 最初と最後の頁 225～250
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.34382/0002000783	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 遠藤 英樹	4. 巻 68(6)
2. 論文標題 社会に定位されるフィジカル=バーチャルな現実空間 オルデンバーグ「サードプレイス」論再考	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 地理	6. 最初と最後の頁 53～60
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 遠藤 英樹	4. 巻 11(2)
2. 論文標題 「メディア誘発型観光」研究の刷新 観光とメディアが接合するプラットフォームの「政治的無意識」	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 観光学評論	6. 最初と最後の頁 101～113
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 遠藤 英樹	4. 巻 138
2. 論文標題 観光という「希望の原理」 「グローバルな複雑性」を加速させよ!	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 立命館大学人文科学研究所紀要	6. 最初と最後の頁 5～24
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 松本 健太郎	4. 巻 11(2)
2. 論文標題 観光とゲームの現代的関係性を考える 倉敷市におけるコンテンツ空間の多層性を題材として	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 観光学評論	6. 最初と最後の頁 145～157
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 鈴木 涼太郎、花井 友美、金 振暁	4. 巻 35
2. 論文標題 観光客はおみやげに何を求めているのか? Web調査による基本要素の抽出	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 観光研究	6. 最初と最後の頁 65～78
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.18979/jitr.35.1_65	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 須永 和博	4. 巻 38
2. 論文標題 多層的なローカリティの創出 タイ南部ソクラー旧市街におけるまちづくりの諸相	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 日本観光研究学会全国大会学術論文集	6. 最初と最後の頁 387 ~ 391
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Yasuda Shin	4. 巻 11(5)
2. 論文標題 Mapping Pilgrimage in the Marketplace: Social Contexts of Bisnis Hajj dan Umroh in Indonesia	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 International Journal of Religious Tourism and Pilgrimage	6. 最初と最後の頁 5 ~ 16
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.21427/A4Q5-5329	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 安田 慎	4. 巻 17
2. 論文標題 ヴァナキュラー・ツーリズムからみる南アジア 宗教・聖地・観光	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 イスラーム世界研究	6. 最初と最後の頁 126 ~ 133
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 安田 慎	4. 巻 17
2. 論文標題 モルディブにおける国内観光 グローバルなツーリズムにおけるヴァナキュラーなりゾート文化	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 イスラーム世界研究	6. 最初と最後の頁 145 ~ 160
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 神田 孝治	4. 巻 11(1)
2. 論文標題 観光学3.0の探究に向けて ツーリズム・モビリティーズの再考を通じた展望	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 観光学評論	6. 最初と最後の頁 73～87
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 遠藤 英樹	4. 巻 34
2. 論文標題 「ツーリズム・モビリティの社会理論」を志向する観光学 観光的 (ツーリストティック) な社会学	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 立命館地理学	6. 最初と最後の頁 33～42
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 遠藤 英樹	4. 巻 134
2. 論文標題 感情労働2.0 パンデミック以後の日本の観光産業における労働の新たな形態	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 立命館大学人文科学研究所紀要	6. 最初と最後の頁 3～23
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.34382/00018069	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 松本 健太郎	4. 巻 14
2. 論文標題 人は自らのイメージを何に託すのか コロナ禍の『あつ森』ブームにみる個室的空間の拡張	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Fashion talks...	6. 最初と最後の頁 28～36
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 松本 健太郎	4. 巻 134
2. 論文標題 ゲーム空間とツーリズム 位置情報ゲームから考える「シミュレーション文化」の拡張	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 立命館大学人文科学研究所紀要	6. 最初と最後の頁 25～46
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.34382/00018070	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 原 一樹	4. 巻 10(2)
2. 論文標題 観光倫理研究の現状と課題 英語圏の先行研究と自然・人間・社会の複雑さを踏まえて	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 観光学評論	6. 最初と最後の頁 113～129
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 原 一樹	4. 巻 134
2. 論文標題 スローツーリズムに関する基礎的研究 スロー運動との関係性および定義・現状・展望	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 立命館大学人文科学研究所紀要	6. 最初と最後の頁 149～182
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.34382/00018074	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 山本 理佳	4. 巻 11(1)
2. 論文標題 COVID-19以後の観光研究における時間地理学/リズム分析の意義と可能性	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 観光学評論	6. 最初と最後の頁 61～72
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Munar Ana Maria & Doering Adam	4. 巻 43
2. 論文標題 COVID-19 the intruder: A philosophical journey with Jean-Luc Nancy into pandemic strangeness and tourism	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Tourism Management Perspectives	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.tmp.2022.100999	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 葉師寺 浩之	4. 巻 10(2)
2. 論文標題 観光者の問題行動を読み解く	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 観光学評論	6. 最初と最後の頁 131 ~ 146
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 橋本 和也	4. 巻 131
2. 論文標題 フィールドワーカーの人類学 歩くことをめぐって	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 立命館大学人文科学研究所紀要	6. 最初と最後の頁 63 ~ 89
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.34382/00015952	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 藤巻 正己	4. 巻 131
2. 論文標題 <追想> あるマレーシア研究者のフィールド経験 ジオグラファー×フォトグラファーの「語り」	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 立命館大学人文科学研究所紀要	6. 最初と最後の頁 91 ~ 112
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.34382/00015953	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 須藤 廣	4. 巻 6
2. 論文標題 バックパッカーツーリズムを再考する	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 新社会学研究	6. 最初と最後の頁 66～87
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 須藤 廣	4. 巻 131
2. 論文標題 観光とフィールドワークのパフォーマンス	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 立命館大学人文科学研究所紀要	6. 最初と最後の頁 113～134
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.34382/00015954	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 遠藤 英樹	4. 巻 131
2. 論文標題 風に吹かれて 中動態としてのフィールドワークによる「新しい実在論」	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 立命館大学人文科学研究所紀要	6. 最初と最後の頁 9～35
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.34382/00015950	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 山口 誠	4. 巻 9(2)
2. 論文標題 大学の観光教育を再考する	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 観光学評論	6. 最初と最後の頁 145～162
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 松本 健太郎	4. 巻 131
2. 論文標題 YouTube動画による「旅の体験」の共有 コンテンツ/プラットフォームとしてのその役割	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 立命館大学人文科学研究所紀要	6. 最初と最後の頁 241～270
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.34382/00015959	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 葉師寺 浩之	4. 巻 131
2. 論文標題 観光研究におけるネットノグラフィー調査の可能性	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 立命館大学人文科学研究所紀要	6. 最初と最後の頁 181～214
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.34382/00015957	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計40件(うち招待講演 1件/うち国際学会 7件)

1. 発表者名 神田 孝治
2. 発表標題 観光学3.0とアッセンブリッジというレンズ
3. 学会等名 観光学術学会第12回大会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 神田 孝治
2. 発表標題 アッセンブリッジのレンズを通して見るジェンダーとツーリズム 伊勢志摩の海女を事例とした考察
3. 学会等名 観光学術学会第11回研究集会
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 橋本 和也
2. 発表標題 観光研究の感情 / 情動論的転回
3. 学会等名 観光学術学会第12回大会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 須藤 廣
2. 発表標題 日本における社会学的観光研究の展開
3. 学会等名 観光学術学会第12回大会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 須藤 廣、新井 克弥、鍋倉 咲希
2. 発表標題 マス・ツーリズムとしてのバックパッキング
3. 学会等名 観光学術学会第12回大会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 遠藤 英樹
2. 発表標題 グローバルな複雑性を加速させよ！ 「コミュニケーションの連鎖」の軸心 (axis) としての観光
3. 学会等名 観光学術学会第12回大会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 中村 香子
2. 発表標題 ケニアの牧畜社会におけるガラスビーズの利用 サンプルとポコットの首飾りを事例に
3. 学会等名 日本アフリカ学会第60回学術大会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 中村 香子
2. 発表標題 コミュニティによる野生動物保護がもたらす観光便益と地域社会の混乱 ケニア牧畜社会の事例から
3. 学会等名 観光学術学会第12回大会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 中村 香子
2. 発表標題 アフリカにおける観光とジェンダー 「苦境」の資源化と女性の社会的地位
3. 学会等名 観光学術学会第11回研究集会
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 Yoshida Michiyo, Ishida Risa, & Majima Sana
2. 発表標題 Travelling to see swords: A study on the perception of fans of anthropomorphic characters in Japan
3. 学会等名 EAJS2023: 17th International Conference of the European Association of Japanese Studies (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 山口 誠
2. 発表標題 観光のドラマツルギー試論 「世界」の集会的上演と「観光的リアリティ」の協演
3. 学会等名 観光学会第12回大会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 原 一樹
2. 発表標題 「善き生の探究としての観光哲学」の教育内容に関する考察 J. トライブの理論を踏まえて
3. 学会等名 日本観光ホスピタリティ教育学会第23回全国大会
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 須永 和博
2. 発表標題 多層的なローカリティの創出 タイ南部ソクラー旧市街におけるまちづくりの諸相
3. 学会等名 第38回日本観光研究学会全国大会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 韓 準祐、間中 光、四本 幸夫
2. 発表標題 観光まちづくりの現状とレジリエンス コロナ禍における観光まちづくり全国調査の中間報告(1)
3. 学会等名 観光学会第12回大会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 神田 孝治
2. 発表標題 現代の観光地理学と空間への問い
3. 学会等名 人文地理学会第1回観光空間研究部会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 遠藤 英樹
2. 発表標題 観光のゼマンティック デジタル革命と結びつき新たに構築されるツーリズム・モビリティ
3. 学会等名 日本記号学会第42回大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 遠藤 英樹
2. 発表標題 ツーリストの欲動を / が駆動する観光=メディアの精神分析
3. 学会等名 観光学術学会第10回研究集会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 中村 香子
2. 発表標題 阿寒湖アイヌコタンの作り手とモノ ハイブリディティから生み出されるオーセンティシティ
3. 学会等名 観光学術学会第11回大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 森本 泉
2. 発表標題 グローバル化する観光と空間の再編
3. 学会等名 人文地理学会第1回観光空間研究部会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 松本 健太郎
2. 発表標題 バーチャル空間とツーリズム 位置情報ゲームから考える「シミュレーション文化」の拡張
3. 学会等名 人文地理学会第2回観光空間研究部会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 松本 健太郎
2. 発表標題 「現実」と「虚構」をまたぎつつ歩く 『ゲーム化する世界』と、それ以後の軌跡をふりかえって
3. 学会等名 日本記号学会第42回大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 山本 理佳
2. 発表標題 観光における「リズム」と空間 COVID-19を契機とした時間地理学的視点への着目
3. 学会等名 観光学術学会第11回大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 山本 理佳
2. 発表標題 ヘリテージをめぐる観光空間へのアプローチ
3. 学会等名 人文地理学会第1回観光空間研究部会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 鈴木 涼太郎
2. 発表標題 コロナ禍における観光教育の実践 「現場/フィールド」感覚をめぐる課題
3. 学会等名 観光学会第11回大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 高岡 文章
2. 発表標題 旅を因数分解する
3. 学会等名 日本記号学会第42回大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Sunaga Kazuhiro
2. 発表標題 'Creative Turn' in Thai Tourism: A Case Study of the Old Town of Phuket
3. 学会等名 14th International Conference on Thai Studies (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Yamagishi Daijiro & Doering Adam
2. 発表標題 Dressing up the place: Lifestyle mobilities, fashion and place making in Miyazaki, Japan
3. 学会等名 T2M 20th Annual Conference (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 安田 慎
2. 発表標題 COVID-19以後の観光のサステナビリティ モルディブ観光をめぐる社会的ジレンマ
3. 学会等名 観光学術学会第11回大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 間中 光
2. 発表標題 不確実な世界における地域と観光 レジリエンス概念を用いた災害・感染症対応の事例分析から
3. 学会等名 観光学術学会第11回大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 神田 孝治
2. 発表標題 観光学3.0へ向けたメタモダニスト的視座からの問い COVID-19の影響に注目したツーリズム・モビリティーズの再考を通して
3. 学会等名 観光学術学会第10回大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 藤巻 正己
2. 発表標題 21世紀における地球社会の諸課題とツーリズム研究 エリアスタディの観点から
3. 学会等名 観光学会第10回大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Endo Hideki
2. 発表標題 Potential of Tourism both Post- and During-COVID-19: For the Dialectic Demonstration of Shifting from “Gift of Risk” to “Gift of Hospitality”
3. 学会等名 7th Annual Conference of EATSA (Euro-Asia Tourism Studies Association) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 遠藤 英樹
2. 発表標題 新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) 以後の観光の可能性
3. 学会等名 観光学会第10回大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 松本 健太郎
2. 発表標題 デジタルテクノロジーが陶冶する技術的コンテクスト 「状況地理学の変容」と「体験の技術的合成」
3. 学会等名 日本コミュニケーション学会50周年記念年次大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 原 一樹
2. 発表標題 観光倫理への倫理学諸理論の導入 現状と課題
3. 学会等名 観光学術学会第9回研究集会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Munar Ana Maria, Doering Adam & Autrui AyA
2. 発表標題 COVID-19 the Intruder: Reflections on Hospitality and Justice
3. 学会等名 Critical Tourism Studies - North America Conference 2021 (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Yamagishi Daijiro & Doering Adam
2. 発表標題 "Producers" of place: Fashionable lifestyle mobilities and the production of tourism destinations in rural Japan
3. 学会等名 Council for Australasian Tourism and Hospitality Education (CAUTHE) 2022 Conference (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 薬師寺 浩之
2. 発表標題 観光者の問題行動を読み解く
3. 学会等名 観光学術学会第9回研究集会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Yasuda Shin
2. 発表標題 Mapping Pilgrimage in the Marketplace: Social Contexts of Ustaz in Indonesian Bisnis Hajj dan Umroh
3. 学会等名 12th International Religious Tourism and Pilgrimage Conference (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Kenchu Hikaru
2. 発表標題 The Relationship Between Disaster Recovery and Tourism : A Case Study of the Mount Merapi Eruption in Indonesia
3. 学会等名 Japan Institute of Tourism Research-TOHOKU Online-Study Meeting
4. 発表年 2021年

〔図書〕 計24件

1. 著者名 神田 孝治、遠藤 英樹、高岡 文章、鈴木 涼太郎、松本 健太郎 編 (橋本 和也、藤巻 正己、須藤 廣、中村 香子、吉田 道代、山口 誠、山本 理佳、須永 和博、薬師寺 浩之、安田 慎、間中 光)	4. 発行年 2023年
2. 出版社 ナカニシヤ出版	5. 総ページ数 226
3. 書名 移動時代のツーリズム 動きゆく観光学	

1. 著者名 須藤 廣、遠藤 英樹、山口 誠、松本 健太郎、神田 孝治、高岡 文章 編著 (鈴木 涼太郎)	4. 発行年 2023年
2. 出版社 明石書店	5. 総ページ数 296
3. 書名 観光が世界をつくる メディア・身体・リアリティの観光社会学	

1. 著者名 上山 肇、須藤 廣、増淵 敏之 編著	4. 発行年 2023年
2. 出版社 公人の友社	5. 総ページ数 298
3. 書名 観光の公共創造性を求めて ポストマスツーリズムの地域観光政策を再考する	

1. 著者名 谷島 貫太、松本 健太郎 編著（遠藤 英樹、鈴木 涼太郎）	4. 発行年 2023年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 296
3. 書名 メディア・リミックス デジタル文化の いま を解きほぐす	

1. 著者名 堀野 正人、谷島 貫太、松本 健太郎 編著（遠藤 英樹）	4. 発行年 2024年
2. 出版社 ナカニシヤ出版	5. 総ページ数 234
3. 書名 都市と文化のメディア論 情報化するコンテンツ/ツーリズム/トランスナショナルコミュニケーション	

1. 著者名 阿部 和俊 編著（山本 理佳）	4. 発行年 2024年
2. 出版社 古今書院	5. 総ページ数 666
3. 書名 日本の都市地理学研究	

1. 著者名 竹内 正人、竹内 利江、山田 浩之 編 (薬師寺 浩之)	4. 発行年 2024年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 306
3. 書名 入門観光学 [改訂版]	

1. 著者名 Progano Ricardo Nicolas, Cheer Joseph M. , & Santos Xose Manuel (eds) (Yasuda Shin)	4. 発行年 2023年
2. 出版社 Springer	5. 総ページ数 248
3. 書名 Host Communities and Pilgrimage Tourism: Asia and Beyond	

1. 著者名 高崎経済大学地域政策学部観光政策学科 編 (安田 慎)	4. 発行年 2024年
2. 出版社 昭和堂	5. 総ページ数 352
3. 書名 大学的群馬ガイド こだわりの歩き方	

1. 著者名 藤田 武弘 編 (間中 光)	4. 発行年 2024年
2. 出版社 追手門学院大学出版会	5. 総ページ数 84
3. 書名 地域に学び、地域を創る	

1. 著者名 遠藤 英樹 編著 (神田 孝治、橋本 和也、藤巻 正己、須藤 廣、松本 健太郎、山本 理佳、安田 慎)	4. 発行年 2022年
2. 出版社 ナカニシヤ出版	5. 総ページ数 198
3. 書名 フィールドワークの現代思想 パンデミック以後のフィールドワーカーのために	

1. 著者名 橋本 和也	4. 発行年 2022年
2. 出版社 新曜社	5. 総ページ数 304
3. 書名 旅と観光の人類学 「歩くこと」をめぐって	

1. 著者名 阪井 俊文、濱野 健、須藤 廣 編著	4. 発行年 2022年
2. 出版社 明石書店	5. 総ページ数 280
3. 書名 看護を学ぶ人のための社会学	

1. 著者名 池谷 和信 編 (中村 香子)	4. 発行年 2022年
2. 出版社 平凡社	5. 総ページ数 288
3. 書名 アイヌのビーズ 美と祈りの二万年	

1. 著者名 松本 健太郎、埴 幸枝	4. 発行年 2022年
2. 出版社 新曜社	5. 総ページ数 240
3. 書名 コンテンツのメディア論 コンテンツの循環とそこから派生するコミュニケーション	

1. 著者名 公益社団法人日本地理学会 編（鈴木 涼太郎）	4. 発行年 2023年
2. 出版社 丸善出版	5. 総ページ数 844
3. 書名 地理学事典	

1. 著者名 市野澤 潤平 編著（須永 和博）	4. 発行年 2022年
2. 出版社 ナカニシヤ出版	5. 総ページ数 194
3. 書名 基本概念から学ぶ観光人類学	

1. 著者名 神田 孝治、森本 泉、山本 理佳 編著（藤巻 正己、遠藤 英樹、吉田 道代、堀田 祐三子、鈴木 涼太郎、高岡 文章、須永 和博、薬師寺 浩之）	4. 発行年 2021年
2. 出版社 ナカニシヤ出版	5. 総ページ数 232
3. 書名 現代観光地理学への誘い 観光地を読み解く視座と実践	

1. 著者名 遠藤 英樹 編著 (神田 孝治、橋本 和也、藤巻 正己、須藤 廣、松本 健太郎、鈴木 涼太郎、高岡 文章、須永 和博、安田 慎、間中 光)	4. 発行年 2021年
2. 出版社 新曜社	5. 総ページ数 240
3. 書名 アフターコロナの観光学 COVID-19以後の「新しい観光様式」	

1. 著者名 上山 肇、須藤 廣、増淵 敏之 編著	4. 発行年 2021年
2. 出版社 公人の友社	5. 総ページ数 272
3. 書名 ポストマストツーリズムの地域観光政策 新型コロナ危機以降の観光まちづくりの再生へ向けて	

1. 著者名 須藤 廣、遠藤 英樹、高岡 文章、松本 健太郎 編著 (神田 孝治、中村 香子、鈴木 涼太郎、須永 和博、安田 慎)	4. 発行年 2022年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 244
3. 書名 よくわかる観光コミュニケーション論	

1. 著者名 藤塚 吉浩、漆原 和子、松山 洋、大西 宏治 編著 (森本 泉)	4. 発行年 2021年
2. 出版社 ナカニシヤ出版	5. 総ページ数 224
3. 書名 図説 世界の地域問題 100	

1. 著者名 高木 陽子、高馬 京子 編著（松本 健太郎）	4. 発行年 2021年
2. 出版社 ナカニシヤ出版	5. 総ページ数 208
3. 書名 越境するファッション・スタディーズ これからファッションを研究したい人のために	

1. 著者名 高馬 京子、松本 健太郎 編著（高岡 文章）	4. 発行年 2021年
2. 出版社 ナカニシヤ出版	5. 総ページ数 250
3. 書名 みる/みられる のメディア論 理論・技術・表象・社会から考える視覚関係	

〔産業財産権〕

〔その他〕

基盤研究B(2021年度-2023年度) 「観光学3.0へ向けたツーリズム・モビリティの再考」 https://sites.google.com/view/kandakoji/project/kibanb-2021-2023
--

6. 研究組織			
	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	橋本 和也 (HASHIMOTO Kazuya) (90237933)	京都文教大学・総合社会学部・名誉教授 (34320)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	藤巻 正己 (FUJIMAKI Masami) (60131603)	立命館大学・文学部・授業担当講師 (34315)	
研究分担者	須藤 廣 (SUDO Hiroshi) (30275440)	法政大学・地域研究センター・研究員 (32675)	
研究分担者	遠藤 英樹 (ENDO Hideki) (00275348)	立命館大学・文学部・教授 (34315)	
研究分担者	中村 香子 (NAKAMURA Kyoko) (60467420)	東洋大学・国際学部・教授 (32663)	
研究分担者	吉田 道代 (YOSHIDA Michiyo) (40368395)	和歌山大学・観光学部・教授 (14701)	
研究分担者	森本 泉 (MORIMOTO Izumi) (20339576)	明治学院大学・国際学部・教授 (32683)	
研究分担者	堀田 祐三子 (HORITA Yumiko) (40346250)	和歌山大学・観光学部・教授 (14701)	
研究分担者	山口 誠 (YAMAGUCHI Makoto) (80351493)	獨協大学・外国語学部・教授 (32406)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	松本 健太郎 (MATSUMOTO Kentaro) (30558060)	二松學舎大學・文学部・教授 (32664)	
研究分担者	原 一樹 (HARA Kazuki) (90454785)	京都外国語大学・国際貢献学部・教授 (34302)	
研究分担者	有田 理佳 (山本理佳) (ARITA Rika) (70708073)	立命館大学・文学部・教授 (34315)	
研究分担者	鈴木 涼太郎 (SUZUKI Ryotaro) (70512896)	獨協大学・外国語学部・教授 (32406)	
研究分担者	高岡 文章 (TAKAOKA Fumiaki) (50389483)	立教大学・観光学部・教授 (32686)	
研究分担者	須永 和博 (SUNAGA Kazuhiro) (70550002)	獨協大学・外国語学部・教授 (32406)	
研究分担者	Doering Adam (DOERING Adam) (70784560)	和歌山大学・観光学部・准教授 (14701)	
研究分担者	薬師寺 浩之 (YAKUSHIJI Hiroyuki) (70647396)	奈良県立大学・地域創造学部・准教授 (24602)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	安田 慎 (YASUDA Shin) (60711653)	高崎経済大学・地域政策学部・准教授 (22301)	
研究分担者	間中 光 (KENCHU Hikaru) (30823546)	追手門学院大学・地域創造学部・講師 (34415)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関